スイセン

■スイセンのプロフィール

学名：*Narcissus*
科名：ヒガンバナ科
分類：球根（多年草）
原産地：地中海沿岸

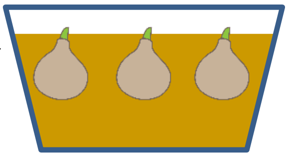
ニホンズイセンは日本各地の海岸線に群生地があり、名前にもニホンが付くので元から自生する植物と思われがちですが地中海原産で、とても古い時代にシルクロードを通って中国経由で渡来して野生化した種と言われています。

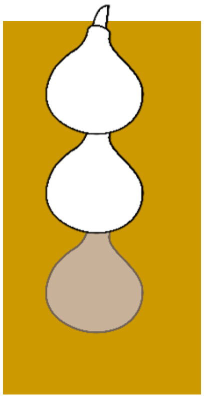
スイセンの球根

■スイセンの育て方

●球根の植付け方

地植え↓　　鉢植え→





地植えする際は、穴を深めに掘って植え付けます。深さの目安は、球根３つ分ほど、とします。
鉢植えの際は、鉢の深さが十分でない場合が多いため、土の表面から芽が見える程度とします。
秋植え球根の植付け時期は、10～11 月が適期ですが、年内（12 月）までに植付けできれば、大丈夫です。

●育て方

植え付けた後は、土が乾燥したら水をあげるようにします。球根自体に花を咲かせるまでの養分が蓄えられているため、肥料は特に必要ありません。
スイセンは、花後その場所に植えたままにしておくと、来年も続けて開花します。

★そもそも「球根」って、なに？

球根には「根が太ってできたもの」、「茎（くき）が太ってできたもの」、「葉が変形してできたもの」など、いろいろなでき方による種類があります。種類はちがっても、球根は「植物の体の一部に、でんぷんをたくわえておく倉庫のような働きをしていること」といえます。
球根のでき方ですが、たとえば球根として一般的なチューリップは、花が咲き終わって葉だけになると、地面の中にある葉の一番下がふくらんで球根になります。葉が３枚ほどなので、球根も３つほどになるわけです。スイセンの球根も、葉の一番下がふくらんだものです。
スイセンやチューリップなどの秋植えの球根は、夏の時期に暑くて雨が降らない地域に自生するものが多く、気温が上昇すると葉が枯れて休眠に入ります。秋に芽が出て、冬の寒さに当たることで花を咲かせます。

18色の緑づくり OTA CITY